

# もしも?分析 (反実仮想分析): 最低賃金と雇用

労働経済学 2

川田恵介

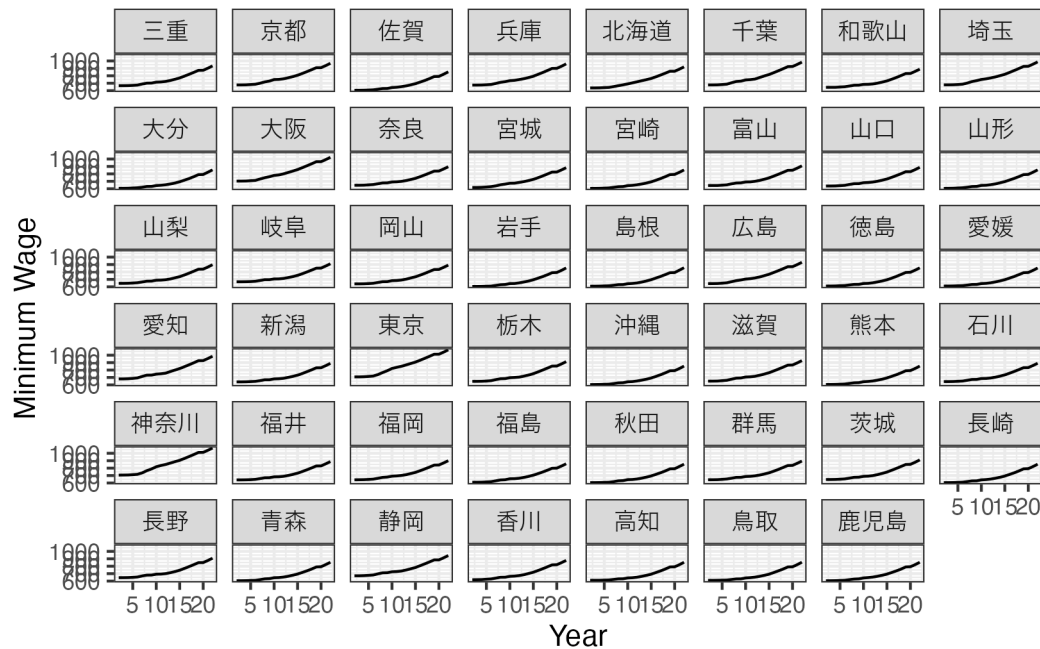
## 反実仮想分析

- 経済学（や多くの他分野）における分析の根幹: 以下の問いに答えるのに必須
  - ある介入の” 因果効果” とは何か？
  - ある事象の” 原因” は何か？
- もしも?分析が必要

## 最低賃金

- 雇用関係において、雇用主が支払う最低限の” 時給”
- 決め方
  - 都道府県ごとに異なる
- 労働・経済政策として改めて注目されている

## 遷移



## 論点

- 副作用はないか？
- 雇用へ与える負の影響は？
  - “事業者への負担が上昇し、雇用が減るのでは？”
- 最低賃金の因果効果を明らかにすることで回答可能

## 因果効果

- 非常に哲学的な概念
- Rubin の反実仮想モデル
  - 現状とは異なる”世界”の状況
- 仮に最低賃金をあげなかったときの東京の状況
- 慎重な議論が必要

## 例

- 使用 PC を WindowsOS から MacOS に切り替えた因果効果
  - WindowsUser と MacUsers を単純比較？
- 人類が地球に与えた因果効果
  - 人類が存在しない地球を想像
  - 地球温暖化

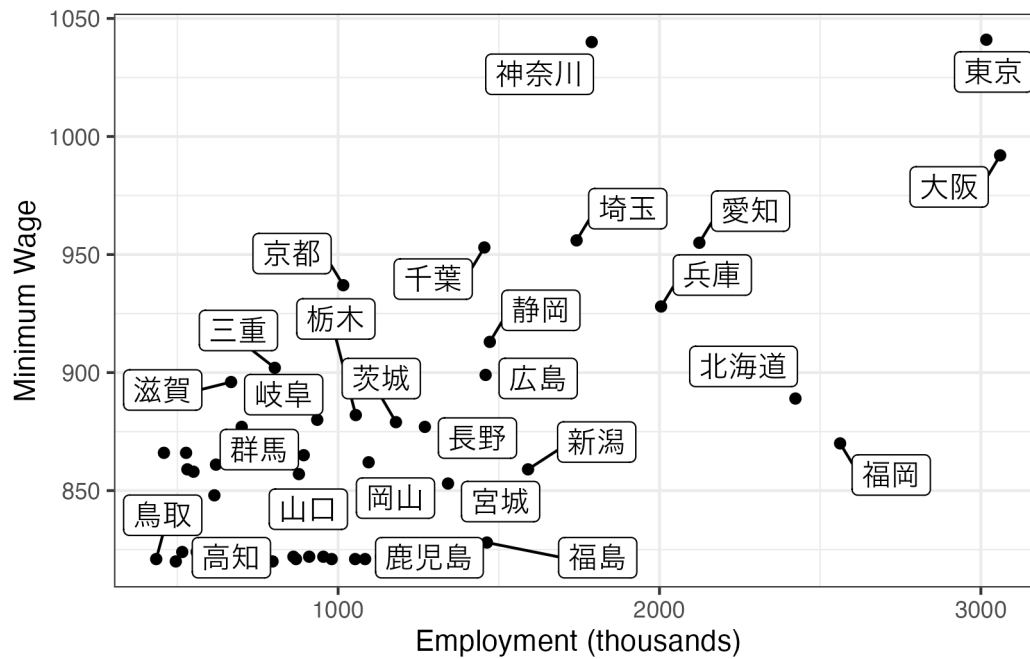
## アプローチ

- 単純比較のみは極めて危険
- 理論モデル + 事例 (データ)
  - 論点の洗い出し
  - “将来” 予測
- “実験” + 事例 (データ)

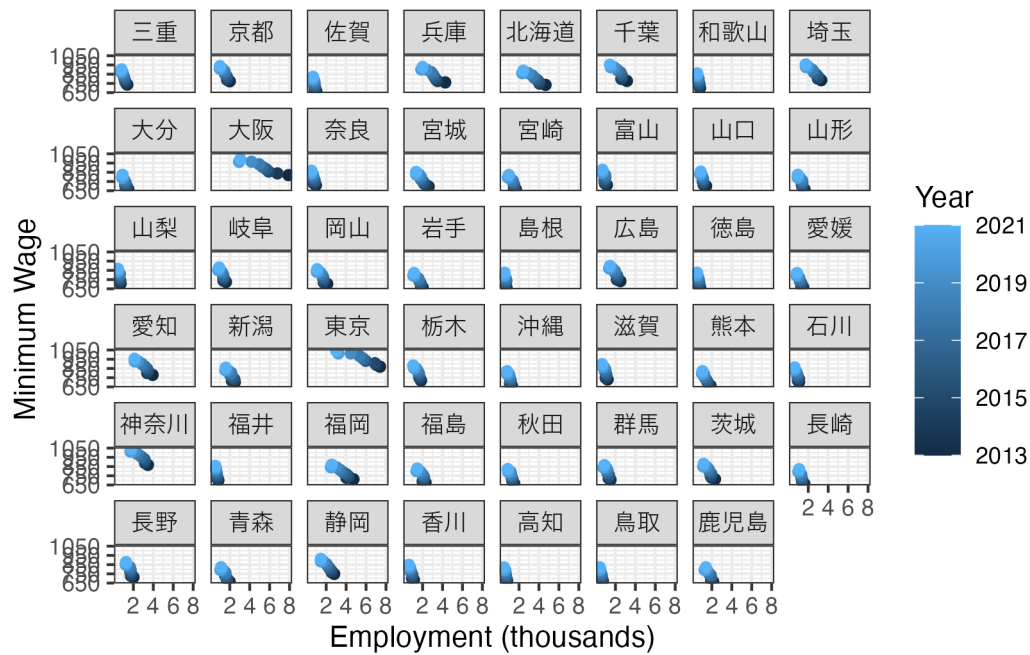
## 例

- 職業安定業務統計から都道府県別毎年 11 月の新規就職件数と最低賃金を図示

## 同時点単純比較



## 異時点単純比較



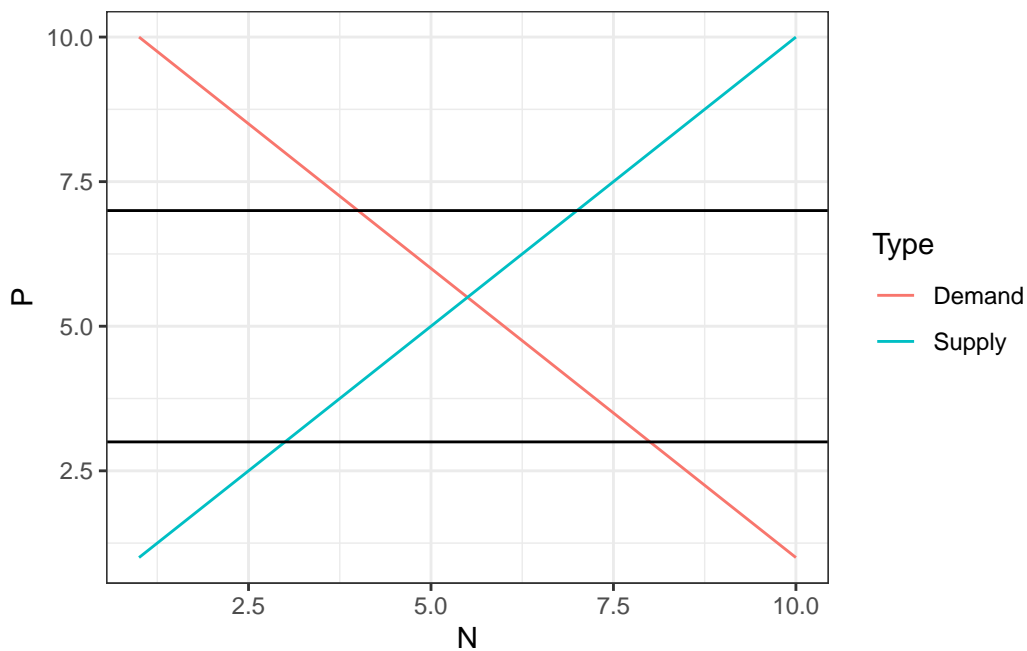
## 単純比較の問題

- 2021 年の東京・香川比較
  - 最低賃金を引き下げた東京 = 香川であれば、賃金の因果効果
- 東京の 2021・2020 年
  - 最低賃金を引き上げなかった 2021 年の東京 = 2020 年の東京
- であれば OK だが。。。？

## 需要・供給モデル

- 労働供給: ある賃金の中で働きたいと考える労働者数
- 労働需要: ある賃金の中で雇用したいと考える労働者数
- 均衡賃金: 需要と供給が一致する賃金相場
- 少数の法則: 需給の小さい方で、雇用量は決まる

## 図示



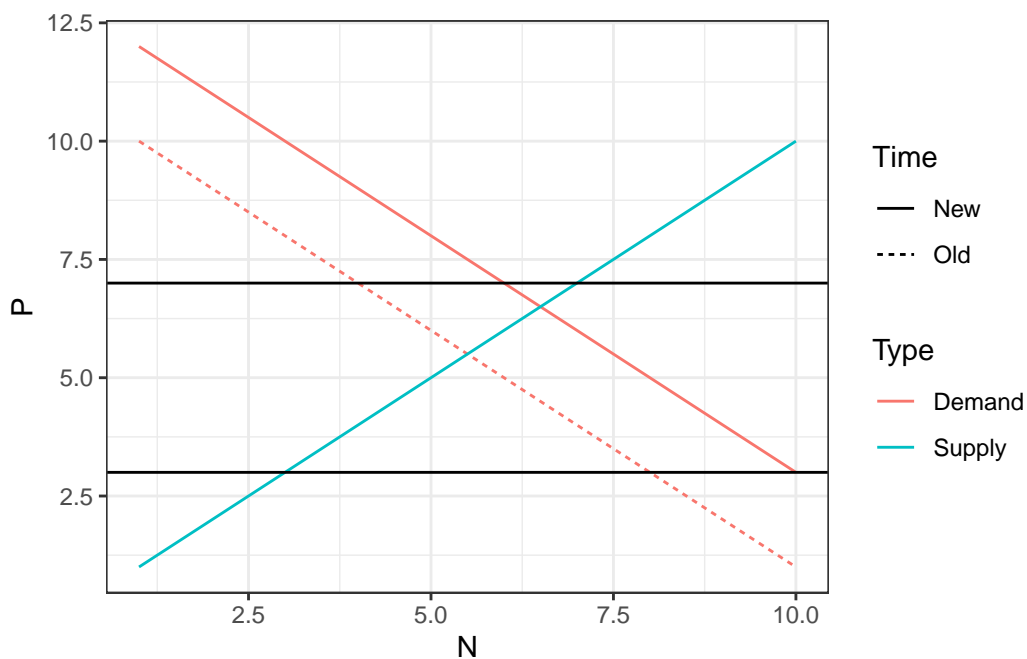
## 暫定予測

- 均衡賃金よりも最低賃金額が低い場合は、影響なし
- 均衡賃金を上回れば、需要は低下し、供給が増加する
  - 需要 < 供給となり、雇用が減少する
- 増加するとすれば??

## 波及効果

- 最低賃金による所得増
  - 地域の財への需要刺激
- 雇用が増加する可能性

## 図示

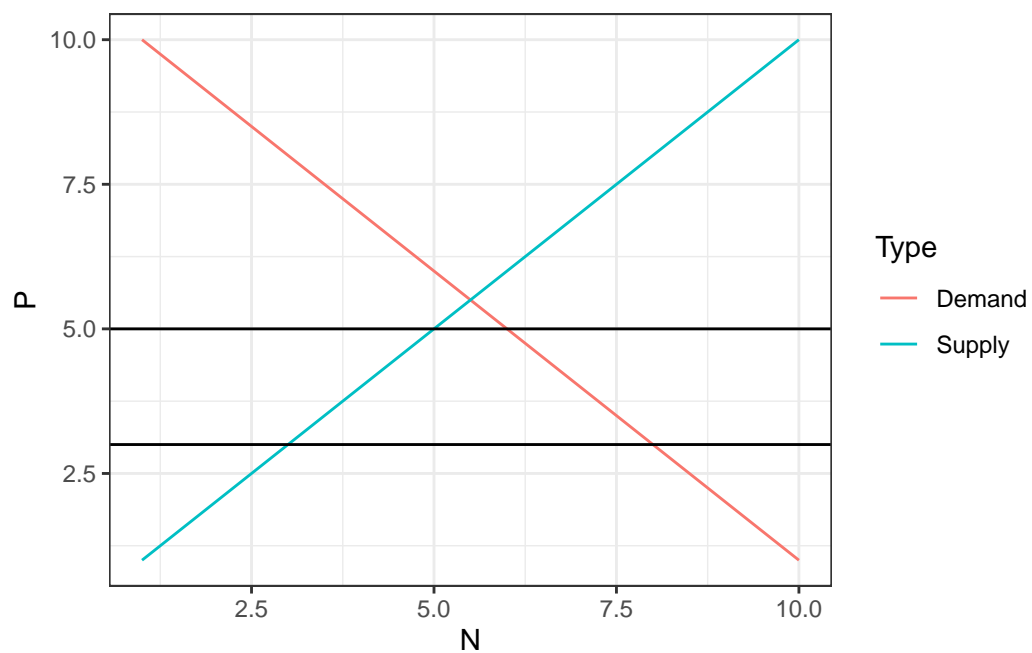


## 相場操作

- 企業による相場操作ができれば、

- 低賃金を押し付ける
  - 供給の減少
- 最低賃金による賃金増加
  - 供給増大
  - 雇用増大

## 図示



## まとめ

- 反実仮想分析 (もしも分析) は”永遠”のゴール
  - 単純比較は一般にミスリード
- 理論的分析は、もしも分析について多くの論点を提供
- あとはデータで検証